平成 29 年度奈良市アートプロジェクト 「古都祝奈良 2017-2018」

実績報告書



平成30年5月 奈良市アートプロジェクト実行委員会

目 次

1.	はじめに	1
2.	事業概要	2
3.	奈良市アートプロジェクト実行委員会について	3
4.	美術部門について	5
5.	演劇部門について	2 0
6.	広報活動について	2 5
7.	検討と課題	2 8
《資	料編》	
	(1) 平成 29 年度事業 参加者数等まとめ	3 2
	(2) 平成 29 年度予算・決算報告	3 3
	(3) 奈良市アートプロジェクト基本構想	3 5
	(4) 平成 29 年度事業計画	3 9

1. はじめに

奈良市では平成 28 年に「東アジア文化都市 2016 奈良市」事業に取り組みました。「東アジア文化都市」とは、平成 26 年に始まった国家プロジェクトで、日中韓の 3 カ国で 1 都市ずつを選定し、それぞれの都市が文化による創造的な発展をめざし積極的な取組みを行うとともに、3 都市の間で文化交流を行い、東アジアの平和構築につなげることを目的としています。3 回目の開催都市に選ばれた奈良市は「古都奈良から多様性のアジアへ」のテーマのもと、パートナー都市である中国寧波市、韓国済州特別自治道との文化交流を展開するとともに、奈良市が世界に誇る歴史的な空間で、アートプロジェクトを展開しました。

特にコア期間(平成 28 年 9 月 3 日~10 月 23 日)を「古都祝奈良-時空を超えたアートの祭典」と名づけ、現代アートの展示や多彩なパフォーマンスプログラムを実施し、奈良の持つ圧倒的な「場の力」を内外に発信することができました。この事業によって、古代奈良の都市の骨格を再定位することができ、奈良を訪れる人がその魅力を再発見、再認識する一助となりました。

奈良市では2016年に行った現代アートの取組みが、歴史に培われた奈良市の新たな可能性を開くものとして位置づけています。「古都祝奈良」が掘り起こした力を今後にどのように活かしていくのかを市民の皆様とともに考え、奈良にしかできないアートプロジェクトに育てていこうとするものです。

2. 事業概要

ことほぐなり

奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良 2017-2018」

期間 平成 30 年 3 月 9 日 (土) ~3 月 30 日 (金)

会場 奈良市役所

ならまちセンター

シーユー奈良店

奈良県立大学

柴田ビル

主催 奈良市アートプロジェクト実行委員会

奈良市

協力 奈良県立大学 地域創造学部 西尾研究室

シーユー奈良店

roof top ならまち染工房

柴田ビル

田上パル

青年団

プロテアトル

平成 29 年度文化庁文化芸術活用プラットフォーム形成事業 東京 2020 応援プログラム

3. 奈良市アートプロジェクト実行委員会について

「東アジア文化都市 2016 奈良市」の成果を引き継ぐため、平成 28 年 12 月に「奈良市 アートプロジェクト実行委員会」を立ち上げ、社会課題をアートによって掘り下げ、新た な価値につなげていくための取り組みを進めることとなりました。

奈良市アートプロジェクト実行委員会

分野等		所属/役職	氏 名
副委員長 東アジ 東アジ 東アジ ア		東アジア文化都市 2016 奈良市実行委員会/委員 同志社大学/特別客員教授	佐々木 雅幸
文化振興計画		奈良市文化振興計画推進委員会/副委員長 大阪樟蔭女子大学/教授	萩原 雅也
委員長		奈良市長	仲川 げん
	门政	奈良市教育委員会/教育長	中室 雄俊
監事		税理士	青木 幸子

(順不同・敬称略)

実行委員会の経過

◎第1回奈良市アートプロジェクト実行委員会

日時 平成 29 年 12 月 19 日 (火)

- 内容 実行委員会会則及び役員を定め、「奈良市アートプロジェクト基本構想」と「平成 29 年度奈良市アートプロジェクト事業計画および予算」について議論をし、主に下 記の点について合意に至りました。
 - ① 実施体制は、奈良市アートプロジェクト実行委員会と、委員会が指名するプロジェクトリーダーによるものとし、事務局を奈良市市民活動部に置くこと。
 - ② 本事業を「美術部門」「演劇部門」の二つのカテゴリーで実施していくこと。
 - ③ 両部門のプロジェクトリーダーをそれぞれ西尾美也氏、田上豊氏とすること。
 - ④ 美術部門の招へい作家は韓国人アーティストチェ・ジョンファ氏とすること。
 - ⑤ 美術部門では作品制作・展示、ワークショップ、アートディスカッションを実施すること。

- ⑥ 演劇部門では「東アジア文化都市 2016 奈良市」の舞台芸術部門「高校生と創る 演劇」で上演した「ならのはこぶね」を新たに中学生を交えた形で演出を加え、 「青少年と創る演劇」として実施すること。
- ◎第2回奈良市アートプロジェクト実行委員会(書面採決)

日時 平成30年1月25日(木)

内容 第 1 回委員会での議論の中で、事業タイトルについて結論が出ていなかったため、東アジア文化都市 2016 奈良市との継続性に鑑み、認知度を得ている「古都祝奈良」とすることについて、書面による採決を行い了承を得ました。

◎第3回奈良市アートプロジェクト実行委員会

日時 平成30年2月6日(火)

内容 西尾氏、田上氏にも出席していただき、「平成 29 年度事業計画」について主に 下記の点について合意しました。

主な合意点は

- ① 西尾氏・田上氏の肩書きを「プロジェクトリーダー」から「プログラムディレクター」に変更すること。
- ② 美術部門のタイトルを「花―Welcome」とすること。
- ③ アートディスカッションの開催場所とゲストについて確定。

4. 美術部門について

美術部門プログラムディレクター西尾美也氏のディレクションにより、韓国人アーティスト、チェ・ジョンファ氏を招へいし、"花―Welcome"と題した作品制作展示、ワークショップ、アートディスカッションを行いました。

(1) 作品制作展示

①作品プラン作成

チェ・ジョンファ氏を、1月27日(土)から1月30日(火)にかけて招へいし、展示会場候補を視察するとともに、素材の探察、関係者との協議等を行ないました。

開催候補場所(奈良市役所、ならまちセンター、シーユー奈良店、柴田ビル、椿井市場、リサイクル推進課大安寺分室ペットボトル中間処理施設、奈良市埋蔵文化財調査センター、なら 100 年会館、奈良市保健所・総合教育センター)をチェ・ジョンファ氏とともに視察し、関係者との協議を行いました。

▼視察の様子











開催候補場所を視察し、素材を探察した結果、チェ・ジョンファ氏より、5 会場(奈良市役所、ならまちセンター、シーユー奈良店、柴田ビル、奈良県立大学)にて、それぞれ下記 6 作品を

展示するプランと大まかな施工方法が提案されました。

展示プラン:

展示ノフン:		
会場名	作品名	仕様
奈良市役所	《花 Welcome —— 市役所》	ペットボトル約 80~100 個を
(1 階玄関ホール)	(Flower Welcome —— Nara City Hall)	詰めた網袋の中に LED 電球
		(昼白色/電球ガードにより
		保護)を入れ、天井部からテ
		グスとロープで吊るして、照明
		器具の下に設置(合計44セッ
		F) _°
ならまちセンター	①《花 Welcome — ならまちセンター:Life》	赤色と黄緑色のプラスチック
(3 階テラス、階段吹	(Flower Welcome — Naramachi Center:	製ザル約 4500 個を結束バン
き抜け、館内各所)	<i>Lif</i> e)	ドでつないだ様々な形の立体
	②《花 Welcome — ならまちセンター: Air》	物を館内各所に設置。3 階テ
	(Flower Welcome — Naramachi Center:	ラス部分には、高さ約4メート
	Air)	ル、幅約 5 メートル、奥行約
		2.5 メートルのピラミッドを設
		置。階段吹き抜け空間には、
		約 2000 個の風船の大群を、
		天井部よりロープとテグスで
		吊り下げる。

シーユー奈良店	《花 Welcome ——シーユー (See You) 奈良	エントランス吹き抜け空間の
(エントランス吹き抜け)	店》	天井に取り付けられた照明器
	(Flower Welcome — See You Nara	具 10 基に、それぞれ約 300
	Branch)	個の風船の大群を、テグスと
		ステンレスワイヤーで設置。
柴田ビル	《花 Welcome —— 柴田ビル》	3 階バルコニーの北面と東面
(3 階バルコニー)	(Flower Welcome —— Shibata Bldg.)	の庇部分に、様々な色と形の
		プラスチック容器をステンレス
		ワイヤーで束ねた 36 セットを
		吊り下げる。
奈良県立大学	《花 Welcome —— 奈良県立大学》	赤色と黄緑色のプラスチック
(4 号館裏スロープ)	(Flower Welcome — Nara Prefectural	製ザル約 1500 個を結束バン
	University)	ドでつなぎ、様々な模様を描
		いた壁面を、廃れた4号館裏
		のスロープに設置。

作家と作品コンセプトや施工方法について協議の上、各会場に設置される6作品それぞれの作品解説を下記の通り作成しました。作品解説はパネル加工して各展示作品の付近に掲示し、パンフレットに記載して各会場で配布しました。施工計画については、チェ・ジョンファ氏が提案した作品展示プランを踏まえて、美術作品の施工経験と設置技法についての知識が豊富なフリーランスのインストーラー7人と協議しながら、各会場の作品ごとに施工方法とスケジュールの調整、人員配置と図面作成を行ないました。

作品解説テキストと作品展示期間、作品写真

奈良市役所:

《花 Welcome — 市役所》 *Flower Welcome* — Nara City Hall [展示期間] 平成 30 年 3 月 9 日 (金) -25 日 (日)

チェ・ジョンファは、歴史ある神社仏閣に対する興味や探究心のみならず、いま現在を生きている人々が利用する「生活の場所」に深い共感をもちながら、奈良市内を視察しました。本作は、そうしたリサーチをもとに生まれた新作です。チェ・ジョンファは奈良市の再生資源集積場で網に入ったペットボトルが積み重なっている様子を見て、「これこそがアートだ」と言いました。市民が使用したペットボトルが分別されてゴミに出されるというプロセスを介して、市民は自動的にこのアートの制作に関わっていると言えます。インテリアデザイナーでもあるチェ・ジョンファは、網に入ったペットボトルをシャンデリアとして再提示します。見慣れた素材を空間に浮かせ、光をあてるという単純な行為によって、私たちの生活を改めて見つめる視点を浮かびあがらせます。









ならまちセンター:

《花 Welcome — ならまちセンター: Life》 Flower Welcome — Naramachi Center: Life [展示期間] 平成 30 年 3 月 9 日 (金) -25 日 (日)

本作は、チェコの首都プラハにある聖サルバトーレ教会でも展示された作品です。荘厳な空間に、一見意味のない風船をかけ合わせることで、ハーモニーを生み出しています。チェ・ジョンファは、吹き抜け空間に風船の大群を展示することで、ならまちセンターの空気を動かし、生きた空間にすることを提案しました。チェ・ジョンファは、日頃から世界のさまざまな市場を巡って、作品に使える素材をリサーチしています。ツイスト風船は中国の工場で大量生産されている製品ですが、躍動感ある動きが「生」を象徴するものとして作品化されています。一方で、「時間が経過してしぼんでしまった風船もまた美しいものだ」とチェ・ジョンファは言い、生きている風船と死んでいる風船が同時に存在することも、重要なハーモニーなのです。







ならまちセンター:

《花 Welcome — ならまちセンター: Air》 Flower Welcome — Naramachi Center: Air [展示期間] 平成 30 年 3 月 9 日(金)-25 日(日)





カラフルなザルは、韓国の家庭でキムチをつくる時に用いられるものです。チェ・ジョンファは、ならまちセンターのテラスから見える若草山と伝統的建築物を目にして、ザルのピラミッドを重ねることで新しいハーモニーを生み出そうと考えました。ザルという日用品を素材にするのみならず、ピラミッドの具体的なデザインや制作をすべてワークショップ参加者に委ねました。デザインを担当したワークショップ参加者は、ならまちでよく見られる格子戸をイメージした緑のラインと、元興寺をはじめとする社寺や家屋で見られる屋根をイメージした赤の三角形で図柄を構成しました。ワークショップに参加した小学校の児童約70人がザルを館内各所に配置して、ならまちセンターを彩っています。





シーユー (See You) 奈良店:

《花 Welcome — シーユー(See You) 奈良店》 Flower Welcome — See You Nara Branch [展示期間] 平成 30 年 3 月 9 日 (金) -25 日 (日)

ハーモニーを生み出すためには、「どのような場所で展示するかが重要だ」とチェ・ジョンファは述べ、最も身近な日用品である衣服を扱うリサイクルショップに着目して、その吹き抜け空間に作品を展示することを提案しました。チェ・ジョンファは「生活こそがアートだ」と主張しており、日頃から世界のさまざまな市場を巡って、作品に使える素材をリサーチしています。本作に使われているツイスト風船は、中国の工場で大量生産されている製品ですが、躍動感ある動きが「生」を象徴するものとして作品化されています。一方で、「時間が経過してしぼんでしまった風船もまた美しいものだ」とチェ・ジョンファは言い、生きている風船と死んでいる風船が同時に存在することも、重要なハーモニーなのです。







柴田ビル:

《花 Welcome ——柴田ビル》 Flower Welcome —— Shibata Bldg.

[展示期間] 平成 30 年 3 月 18 日 (日) -25 日 (日)

チェ・ジョンファは奈良を視察した時に、人々の生活してきた歴史が堆積した光景を目にし、「未来の遺産である」と言いました。柴田ビルは古い佇まいの中で、新世代の入居者たちが美容院や衣料品店、喫茶店、染色工房を経営し、個々人の新しい歴史が積み重なり始めています。時を経た建物にカラフルなプラスチックを掛け合わせることで、ハーモニーが生み出されます。プラスチック容器は、市民から集めた使い終えたものと新品が組み合わされて構成されています。チェ・ジョンファは「芸術や文化は限られた人々のものではなくだれにでも開かれている」と一貫して唱えてきました。プラスチック容器というだれもが見慣れた素材を用いるだけでなく、制作のプロセスもワークショップとして一般市民に公開し、ワークショップ参加者は日用品を用いた造形と色彩の組み合わせを楽しみました。









奈良県立大学:

《花 Welcome — 奈良県立大学》 Flower Welcome — Nara Prefectural University [展示期間] 平成 30 年 3 月 9 日 (金) -25 日 (日)

本作品は、昨年 10 月に奈良県立大学で開催された現代アート展「船/橋 わたす」で発表された作品です。ザルというだれもが見慣れた素材を用いるだけでなく、そのデザインをすべて学生に委ねました。4 号館裏の使われなくなったスロープは、普段は学生でも目を向けない場所ですが、チェ・ジョンファが最も気に入った場所です。スロープの始まりは過去作品のパターンを引用し、新しい矢印のパターンを繋げることで、ここから新しく生まれ変わることを意図しました。ならまちの身代わり猿や、佐保川沿いに立ち並ぶお地蔵さん、船橋商店街のロゴマークなどをイメージしたパターンが続きます。古くからあったスロープが異世界へと通じる道に変換され、奈良県立大学から見える風景を再発見させてくれます。



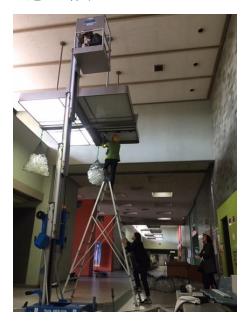




②作品の制作・展示等の業務

チェ・ジョンファ氏の作品制作及び展示にあたっては、平成30年3月24日から27日にチェ氏を招き、各会場での下見と打合せ、作品の制作・施工・撤去、確認業務を行いました。

▼施工の様子





【展示会場来場者数】3月9日~25日 計27,611人

市役所	ならまちセンター	シーユー奈良店	柴田ビル	奈良県立大学
4,523 人	15,650 人	7,174人	264 人	未カウント

※柴田ビルは担当者が店舗内に見学に来られた方、店舗内から外を見て関心を示した方をカウントしています。

(2)ワークショップ

今回のプロジェクトでは、作品の展示に至るまでの過程を重視し、制作にできるだけ多くの市民 に関わってもらおうと、二つのワークショップを実施しました。

①ワークショップのプラン作成

チェ・ジョンファ氏が過去に同じ素材と手法を用いたワークショップを世界各地で行なってきた事例を踏まえて、ワークショップ参加者のターゲット層を想定し、複数の候補会場から市民や子どもがたくさん集まるならまちセンターを開催会場として選定しました。視察時に作家とプログラムディレクターが現地を下見した際に、屋外の芝生広場であれば通りすがりの通行人や親子連れなど広く市民の参加を促すことができること、作品のヴィジュアルイメージとコンセプトがより優れたものになることなど様々な条件を考慮して選定にあたりました。

作家とワークショップのコンセプトや開催会場、制作方法について視察と協議を行った上で、ワークショップ①②の解説を下記の通り作成し、チラシや SNS、ウェブサイト等での広報媒体に掲載しました。また、ワークショップ①の制作では、過去にチェ・ジョンファ氏の作品制作やワークショップに関わった経験のあるコーディネーターとアルバイトが内容説明や制作補助を行いました。ワークショップ②の当日は、プログラムディレクターがコンセプトや内容、制作方法について説明を行いました。

ワークショップ「Happy Happy」

- ① カラフルなザルや容器、風船など身近なものを使った作品のパーツを作るとともに、それを展示し、見なれた景色を一変させるワークショップを実施しました。
 - [日時] 平成 30 年 2 月 20 日 (火)-3 月 8 日 (木) 10:00-18:00 参加費無料・申込不要 [会場] ならまちセンター3 階会議室 [対象] 子どもから大人まで
- ② 大小さまざまなプラスチックのフタを自由に並べて、芝生広場の上に花をいっぱい咲かせました。

[日時] 平成 30 年 3 月 25 日(日) 13:00-15:00 参加費無料·申込不要

[会場]ならまちセンター芝生広場 [対象]子どもから大人まで

▼ワークショップ Happy Happy①の様子



ならまちセンターの会議室を会場として、2月 20日~3月8日、ザルやプラスチック容器を繋 ぐ作業の市民向けのワークショップを行いました。





2月7日に椿井小学校の1・2年生約70人が、ならまちセンターの館内で思い思いの発想でザルを積み上げ、楽しい作品を作りました。



また、2月8日に同校の学童保育所の児童 約15人が配色や順番を考えながら、プラス チック容器を繋ぐワークショップに参加しまし た。

▼ワークショップ Happy Happy②の様子



3月25日にならまちセンター芝生広場で、 チェ・ジョンファ氏も加わって、カラフルなプラ スチックのキャップを使い、思い思いの花を咲 かせました。



【ワークショップ参加者数】 2月20日~3月25日 計491人

	Нарру Нарру②		
2/20~3/8	3/25		
206 人	70 人	15 人	200 人

(3)アートディスカッション

招へい作家であるチェ・ジョンファ氏と、京都市立芸術大学美術学部教授の小山田徹氏に参加を依頼し、公募による市民と招待者を交えて、奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」美術部門のプログラムディレクターである西尾美也氏が進行役としてアートディスカッショントを実施しました。西尾氏が本イベント全体の趣旨や各会場の作品について解説を行ない、チェ・ジョンファ氏とゲストの小山田徹氏が自身のこれまでの活動についてプレゼンテーションをした後、奈良におけるアートプロジェクトの課題と展望について来場者を交えてディスカッションを行いました。

来場者は奈良市長から大学教授、アートプロジェクト運営者、建築家、市民など幅広く、それぞれの経験と視点にもとづく多彩な意見が出されました。

チェ・ジョンファ氏から

- ・今回の展示は全て良かったが、特にプラスチックキャップのワークショップが一番よかった。
- ・市役所のペットボトルの作品は、市民全部が参加した作品、市民の曼荼羅である。これは世界 中でやりたい。私にとっても新しいエネルギーの出る作品である。
- ・(小山田氏のプレゼンを聞いて)良い芸術は対話から生まれる。
- 作家は物質を創るのではなく、空気を創るものだと考えている。
- ・芸術はするものではなく、できてしまうもの。芸術は発酵させなければならない。
- ・奈良の規模は何をするにも適切であり、奈良に愛着を感じている。
- ・芸術は昔、今、これからのものを合わせていかなければならない。
- これが奈良にはできると考えており、これからも奈良でやりたい。

小山田徹氏から

- ・共有空間をどのように獲得していくかがキーワード。
- ・愛は獲得感から、獲得感は労働から一番起こりやすい。
- ・関係性は社会の中に埋め込まれている。(例:カフェや屋台)
- ・(チェ氏の感想を受けて)対話の後に自分が変化しないと本当の対話とは言わない。チェさんの 作品にはその感覚が溢れている。
- ・素晴らしい混ざり方があれば、その先の未来に素晴らしく貴重なものが創られていくのではとい う予感がある。
- ・現代美術は新しい価値観を突きつける。違和感のあるものが出てきたとき、それを質問する、その対話から価値が生まれてくる。
- ・東京はスピードが速すぎて、心の余裕がないままに、価値が先行していく。奈良にはじっくりと進めることを期待する。それが先端になると思う。

仲川市長から

・奈良は歴史が偉大過ぎてなかなかタッチし難いが、そこが意外に生息しやすい人達もい

る。そういった立ち位置の面白さを活かすとコミュニティーが狭いというのが利点に働く。アーティストの方にも、これから色々な活動をして貰いやすいのかなと感じる。

・生活の中に価値観の違いを見出す。文化の共通性を見出す。生活の中にアートの光を当 てるというのは大都会よりも奈良にしっくり来るのかなと思う。

せいせいかつかつ

アートディスカッション「生生活活――生きることとアート」

招へい作家のチェ・ジョンファと、共有空間と対話をテーマに活動を展開する小山田徹をゲスト に迎え、今後の奈良におけるアートプロジェクトの可能性についてディスカッションを行いました。

[日時]平成30年3月25日(日)16:00-18:00 要申込

[会場]ならまちセンター1 階 coto coto イベント・展示コーナー

「ゲスト]チェ・ジョンファ(アーティスト)、小山田徹(美術家、京都市立芸術大学教授)

[進行]西尾美也(美術家、奈良県立大学専任講師、奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」美術部門のプログラムディレクター)

[対象]中学生以上 [参加費]540円(ワンドリンク付)

【アートディスカッション参加者数】3月25日20人

▼アートディスカッションの様子





5. 演劇部門について

次代を担う若者が創作の過程を演劇のプロとともに経験することで、創造する喜びを体感し、その成果を発信するとともに、地元である奈良を自分の言葉で語ることができる人材を育成することを目的とした事業で、オーディションで選ばれた中高生が、2016年に上演されたオリジナル演劇「ならのはこぶね」に新たな演出を加えて上演しました。



演劇部門プログラムディレクターで、

劇作家の田上豊氏が作・演出を行い、中高生が一体となり稽古に励み、一つの舞台を創り上げることに取り組みました。

タイトル:「ならのはこぶね」

作・演出 : 田上 豊 (田上パル主宰)

出 演:オーディションに合格した中・高校生18人

(中学生女子10人、高校生男子1人、高校生女子7人)

(1) 平田オリザさんによる演劇入門ワークショップ

「東アジア文化都市 2016 奈良市」舞台芸術部門ディレクターの平田オリザさんによるワークショップを開催しました。

平田さんの劇作家としてだけではなく教育者としての 視点からの解説や、各地で行われてきた同様のワークショップでの経験談等も交えたお話で、終始和やかに進行 しました。イメージを他者に届け共有すること、イメージを身体で表すことの大切さ、難しさなどが語られました。



と き : 平成30年1月23日(火)17:00~20:00

ところ : ならまちセンター 多目的ホール

参加者 : 一般公募による参加者 27 人 一条高校生徒・教員 9 人 見学 3 人

内 容 :

①平田さんが出した問題に対して、同じ答えを持つ人同士 で集まるゲームや、身体を触れ合わせて共同作業を行うゲ ーム

- ②1~50番までのカードを引き、自分に近い番号の人を探すゲーム
- ③キャッチボール、長縄跳びのジェスチャー
- ④ロールプレイ



(2) 青少年と創る演劇オーディション

オーディションを 2 日間にわたり開催しました。他己紹介、ロールプレイ、台本についての意見交換会と読み合わせを行った後、参加者の稽古への出欠等も考慮に入れ、合否を決定しました。

と き : 平成30年2月3日(土)4日(日)

 $13:00{\sim}16:00$

ところ :3日 ならまちセンター多目的ホール/

4 日 なら 100 年会館小ホール

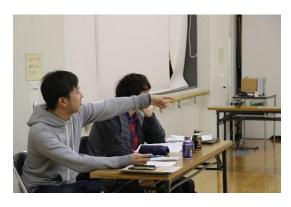
参加者 : 一般公募による中高生 14人

(3 日 12 人、4 日 10 人)



(3)稽古

田上豊さん、制作・演出助手の FO ペレイラ宏一朗さん、演出助手・殺陣指導の福田健二



さんの3人による指導のもと、中高生ととも に作品を作り上げていきました。

2016 年に初演されたオリジナル演劇「ならのはこぶね」をもとに、今回の出演者の個性やバランスを検討しながら配役し、新たな演出を加えながら稽古を進めました。女子生徒が多いため、設定を女子高校にするとともに、役柄も人数に合わせて変更するなど、新

出演者と新演出のよる演劇が、日ごとに仕上がっていきました。

1週目はプレ稽古、2週目からは本稽古に入り、 週末の本稽古までの間の水曜日に、出演者だけで 自主稽古も行いました。稽古では、ストレッチ、 発声練習、台本読み合わせ、シーン毎の稽古、通 し稽古、殺陣練習など、本番が近付くにつれ、出 演者の演技にも磨きがかかっていきました。

出演者は、演劇経験者、未経験者、中学生、高校生など、様々な立場で色々な思いがありましたが、みんなで相談や話し合い、稽古を繰り返し、「ならのはこぶね」の上演をめざしました。

特に、3月27日からはならまちセンター市民ホールでの本番同様の稽古がはじまり、出演者もどんどん俳優の顔となっていき、稽古も熱を帯びてきました。





と き : 平成30年2月20日~3月29日の

間の16日間

ところ : ならまちセンター多目的ホール、なら 100 年会館小ホールほか

(4)公演とアフタートークセッション

青少年と創る演劇「ならのはこぶね」の公演と、仲川市長と田上プログラムディレクターによるアフタートークセッションを開催しました。出演者は 1 回限りの公演に、全ての力を出し切り、観客から惜しみない拍手が送られました。アフタートークセッションでは、制作秘話、今回の作品を作り上げる過程を通じてコミュニケーション能力や表現力を高める大切さ等の話が繰り広げられました。

と き : 平成30年3月30日(金)

公演 14:00~15:20 (受付開始 13時/開場 13時30分)

アフタートークセッション 15:20~15:30

ところ : ならまちセンター 市民ホール (奈良市東寺林町 38 番地)

入場料 :無料(当日券を13時より受付)

観覧者数 : 250 人

スタッフ : 作・演出 田上 豊(田上パル)

演出助手 FOペレイラ宏一朗(プロトテアトル)、福田 健二

舞台監督・美術 ニシノトシヒロ (BS-Ⅱ)

舞台監督補佐 北方こだち

音響 近松 祐貴

照明 加藤 直子(DASH COMPANY)

映像 吉光 清隆 (PLAYSPACE)

衣装 山口 夏希

当日運営 三坂 恵美(観劇三昧)

あらすじ : ときは、現代。学校で奈良(平城)時代の考察、再発見を促された高校生。 教科書を地図代わりに読み進めて行くも、歴史に余白が多く実感に辿り着けない。劇化し発表することを指示された今、実感なしでは作品なんか無理! と大混乱。学年発表はもう近い!となりのクラス「平安時代」は豪華絢爛。 焦りに焦る「平城」クラス。よりによってキーパーソンの鑑真役はずっと学校来てないし、クラスの仲も良くないし、どうなっちゃうの、私たち。歴史の海に漂い、小舟で浮かぶ高校生達。私たちは、遣唐使。時代をまたぐ遣唐

高校生達の歴史の冒険が、航海が、今始まる。

キャスト : 生徒1 岡山 弥美

生徒 3 小阪 希空

生徒 5 小田 つぐみ

使。きっと戻ってきてみせる。

生徒7 山口 愛優理

生徒 9 椿井 里奈

生徒 11 堤 晴菜

生徒 13 松岡 夏来

生徒 15 中島 萌

生徒 17 林 奈央

生徒 2 東 未郷

生徒 4 依藤 日向

生徒 6 吉田 穂奈美

生徒 8 河内 侑美琳

生徒 10 浅野 花蓮

生徒 12 西村 百可

生徒 14 野田 菜摘

生徒 16 匠 夏歩

日本史の先生 宮井 俊介

















6. 広報活動について

■ 広報コーディネートについて

本事業の広報活動については、西谷枝里子氏にコーディネートを依頼し、フライヤー や SNS 等にて行いました。

< 西谷枝里子>

1981 年生まれ。京都市立芸術大学美術研究科彫刻専攻修了。国内ファッションブランドでのプレス、デザイン、ショー製作等を経て、森美術館でマーケティング・プロモーションに携わる。2014 年から京都に拠点を移し、同年アートの広報とコーディネートを行うチーム「リレーリレー」を立ち上げる。個人での活動をはじめ、東京を拠点に海外広報を担当する那波佳子と共に、国内のアートプロジェクトにおける専門性の高い広報や制作、コーディネート業務に関わる。

■ 広告物

· フライヤー(2月23日から配布開始)

仕様:A3サイズ カラー両面 二つ折り

内容:アート展示、演劇プログラム開催について

部数:10,000部

(主な配布先)

市施設 2,000 部/美術館・美術団体等 2,000 部/報道関係 300 部/ 関係団体(東アジア) 1,000 部/関係イベント配布 1,000 部/ 会場設置 1,000 部/関係者・出演者等 2,000 部/その他 700 部

· のぼり旗 13 本、ポスター100 枚(会場掲示用)

美術作品展示会場、演劇会場(ならまちセンター)等に掲示

- インターネットを利用した広報
- ・ Facebook ※「東アジア文化都市 2016 奈良市」から名称変更

フォロー数 (平成30年4月現在):3,009件

投稿数:46件

Facebook 広告: 13 件

Twitter ※「東アジア文化都市 2016 奈良市」から名称変更

フォロワー数 (平成30年4月現在):750件

ツイート数 (リツイート含む):76件

· Instagram ※新規

フォロワー数 (平成30年4月現在):98人

投稿数:24件

・ WEB サイト (奈良市公式ホームページ)

- プレスリリース・メールニュース
- ・ 市政記者クラブ、県文化記者クラブ 報道資料提供 企画発表(市長定例記者会見) 1件/演劇ワークショップ 1件/ 高校生演劇 3件/美術 2件
- ・ メールニュース アート関係者や報道・メディア等に2回(企画発表時と開催時)メールでのリリース を行った。

■ メディア等掲載

掲載日	掲載物	内容
2月13日	時事通信社 iJAMP	定例記者会見 発表内容の紹介
3月9日	毎日新聞 (奈良版)	古都祝奈良きょう開幕
		日韓芸術で交流
		パラ開閉式・美術監督が作品
3月13日	ならナビ(NHK 奈良放送局)	パラリンピック芸術監督
		韓国人芸術家の現代アートを展示
3月17日	産経新聞 (奈良版)	街を現代アートで彩る
		花 Welcom 奈良市内 5 か所で展示
3月19日	読売新聞 (奈良版)	中高生が歴史冒険劇
		奈良で30日上演 18人猛練習
3月19日	ならナビ(NHK 奈良放送局)	まほろばラウンジに西尾プログラムデ
		ィレクター出演
3月31日	奈良新聞	創造する喜びプロと"体感"
		古都祝奈良「ならのはこぶね」上演

■ プログラム作成(配布用)

日本語版: A4 白黒 4 頁 1,000 部印刷 (会場にて配布)

英語版: A4 白黒 2 頁 100 部印刷 (会場にて配布)

- しみんだより 3月号にプログラム紹介記事掲載
- プロモーション動画等
 - ・ 奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良 2017-2018」YouTube チャンネル
 - ◆ 開催決定告知動画(2月23日公開)
 - ◆ 企画告知動画(3月7日公開)

- ・ 奈良市動画チャンネル「奈良市ニュース」
 - ◆ 奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」開催決定! (2月22日公開)
 - ◆ 奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」いよいよスタート!(3月2日公開)
 - ◆ 古都祝奈良アートディスカッション「生生活活-生きることとアート」(3月 25日中継)
 - ◆ 「古都祝奈良」青少年と創る演劇が3月30日(金)に上演!(3月23日公開)
 - ◆ 「古都祝奈良」ワークショップに子どもたちも参加! (3月16日公開)
 - ◆ ナラナラ TV 第 44 回 「古都祝奈良」いよいよスタート! (再掲) (3 月 9 日 公開)
 - ◆ ナラナラ TV 第 45 回 子どもたちもワークショップに参加! (再掲) (3 月 23 日公開)



市長定例記者会見



のぼり (SeeYou 奈良店)

7. 検討と課題

■ 事業全体について

本事業は東アジア文化都市の成果を活かす目的で立ち上げていることから、東アジア文化都市のコア期間のタイトルであった「古都祝奈良」というネーミングを継承した。初回である今回はそのコンセプトを事業展開の中で伝えていくことは難しかったが、今後、このタイトルを事業趣旨と共に上手く定着させて、都市格の向上をめざす文化政策であることを明確にし、市民の理解を得ていきたい。

継続事業としての予算の安定的確保が必要であり、年間を通じて恒常的に各方面への働きかけが必要である。

■ 実行委員会について

有識者を中心に少人数で発足させたが、今後の展開によっては、必要な分野に新たな委員やアドバイザー等を加えて、実行委員会としての実効力を高めていくことも検討していく必要がある。

■ 全体スケジュールについて

今年度は本事業の予算措置が 9 月の補正対応となったために事業のスタートが下半期となり、実行委員会の立ち上げが 12 月にずれ込んだ。このため事業実施を年度末に集中させざるを得ず、すべての部門において非常にタイトなスケジュールとなった。次年度は、余裕を持ったスケジュールで事業計画を立て、個々のプログラムの一番相応しい時期を選んで実施したい。

■ 広報について

スケジュールがタイトであったために、PR 期間が短くならざるを得ず、事業の認知度を上げることが難しかった。今後は事前に広報計画を立て、最も効果的なタイミング、ターゲット、場所、広報媒体を選定し、本事業のコンセプトを正確に伝え、認知度を上げていきたい。

■ 美術部門について

プログラムディレクターを置いたことで、アーティストの選定、海外アーティストとの

意思疎通、全体のディレクションを円滑に進めることができた。一方、作品の施工についても、全てプログラムディレクターを通じて行ったために、ディレクターの負担が大きかった。今後施工に関しては、最適な方法を検討したい。

また、作品展示のみならず、市民の現代アートへの理解を深めるための対話が必要であり、展示と並行して対話のプログラムが必要である。

■ 演劇部門について

一昨年は高校生のみで実施したオリジナル演劇を、今回は中学生を交え、新たな演出を加えて実施した。昨年の演出家をプログラムディレクターとして指名したことにより、経験者と未経験者を上手く溶け合わせることができた。今後、「ならのはこぶね」をどこまで続けていくのかの展望を持つ必要がある。

公演日までの期間が短く、本番前の集中稽古日がウィークデーの夜間に集中したため、中高生である出演者にとっては保護者の理解を得ることが難しい局面もあった。特に中学生には自覚を促すとともに、保護者に対しても事業趣旨やスケジュールを予めしっかり伝えておく必要がある。

「青少年と創る演劇」というプログラムを一年ごとの単発事業ではなく、継続性を持たせたプログラムとしていく仕組みを作っていく必要がある。また、ワークショップ、オーディション、稽古から公演までの過程を大切にし、教育委員会に働きかけ、それぞれの局面により多くの人を巻き込む工夫が必要である。

■ サポーター等について

スケジュールがタイトであったために、今回はサポーターなどを募集する時間がなかったが、それぞれのプログラムに参画するサポーターや団体を募集するとともに、市内で活動しているアート関係の団体と連携し、相乗効果をめざしたい。

《資料編》

(1) 平成29年度事業 参加者数等まとめ

■ 全体

参加者数

美術部門	28,022 人
演劇部門	684 人
計	28,706 人

属性 (アンケート結果より)

性別	
男性	28%
女性	71%
未記入	1%

				年齢				
10 代未満	10代	20代	30代	40 代	50 代	60代	70 代以上	未記入
2%	12%	4%	16%	15%	14%	15%	18%	4%

■ 美術部門 参加者数

会場	人数
作品:奈良市役所	4,523 人
作品:ならまちセンター	15,650 人
作品:シーユー奈良店	7,174人
作品:奈良県立大学	未カウント
作品:柴田ビル	264 人
ワークショップ	491 人
アートディスカッション	20 人
計	28,022 人

■ 演劇部門 参加者数

企画名	人数
ならのはこぶね 観覧	250 人
稽古、ワークショップ等	434 人
計	684 人

(2) 平成 29 年度予算・決算報告

《平成 29 年度(古都祝奈良 2017-2018) 予算》 事業費としては、実行委員会が支出する経費として以下の事業費を見込む。

[収入]

単位:千円

費目		平成 29 年度	備考
市負担金収	国庫支出金	3,750	文化庁文化芸術創造活用プラット フォーム形成事業補助金を活用
入	市支出金	3,750	
合計		7,500	

[支出]

単位:千円

費目	平成 29 年度	備考
事業費	6,000	現代アート、演劇等主要事業
広報費	1,000	広報宣伝費
事務管理費	500	事務費、運営費
合計	7,500	

《平成 29 年度(古都祝奈良 2017-2018) 決算》

[収入]

単位:千円

費目		平成 29 年度	備考
市負担金収	国庫支出金	3,750	文化庁文化芸術創造活用プラット フォーム形成事業補助金を活用
入	市支出金	3,634	
合計		7,384	

[支出]

単位:千円

費目	平成 29 年度	備考
事業費	6,238	現代アート、演劇等主要事業
広報費	821	広報宣伝費
事務管理費	325	事務費、運営費
合計	7,384	

(3) 奈良市アートプロジェクト基本構想

奈良市アートプロジェクト

基本構想

平成 30 年 2 月

奈良市アートプロジェクト実行委員会

1: 構想趣旨

<前提>

奈良市は 2016 年、「東アジア文化都市」に選定され、「古都奈良から多様性のアジアへ」をテーマとして一年間さまざまな事業に取り組んだ。中でもコア期間の「古都祝奈良」と題したプロジェクトは、奈良が圧倒的な「場の力」を持つまちであることを内外に発信し、奈良が古来、多様性と包摂性を持って世界と向き合い、寛容と共生の精神をもって最先端の文化を取り入れてきたまちであることを、アートを通じて明らかにしようとした。

その結果、古都奈良の骨格を明らかし、奈良そのものを再定位するとともに、奈良が発信していくべき方向性を見出すことができた。

<趣旨>

この東アジア文化都市の趣旨を引継ぎ、現代社会がもつ様々な課題や事柄、今後、未来に対して、奈良が訴えていくべきこと、奈良がすべきこと、奈良だからできることを、掘り下げ考える機会とし、文化(アート)という窓を通じて、新たな価値の創造につなげていきたい。

2: 事業概要

<名称> 奈良市アートプロジェクト 古都祝奈良

これは、2016 年の東アジア文化都市のコア期間のために作成されたタイトルである。世界遺産の社寺や平城宮跡での事業は「ことほぐなら」の響きとともに、SNSや雑誌等様々な広報媒体を通じて拡散し、「場の力」を活かした奈良の新しい事業として話題を集めた。今回のプロジェクトでも文化芸術の力で社会の課題を掘り下げようとする基本的なコンセプトは同様である。さらに再びこのタイトルを使用することは前回のファンの気持ちをさらに熟成させる効果と今後の情報の拡散力に弾みがつく効果につながると考え、「古都祝奈良」を事業名称として使用する。

事業名表記例: 古都祝奈良 2017-2018

<事業イメージ> <u>社会課題×アート</u> 奈良

<展開方法>

事業の展開に当たって、課題やテーマ、イベント等に合わせて、

- ①実施する時期(タイミング)、
- ②対象(ターゲット)、
- ③場所(空間)を絞り込み、
- ④アートプロジェクトの実施によりもたらされる変化を期待するもの。

今回のプロジェクトは、アートイベントというよりは、取組みの過程を発信することに 重点をおく。

事業規模よりも一つ一つの事業の意味や、社会に及ぼす影響力を仔細に分析する必要がある。その上でアートを手法としながら、アートの領域を超え、まちづくりの基盤づくりに積極的に関与できる継続的な事業展開をめざそうとするものである。

例えば、・奈良だからこそできるテーマ設定

- ・ピンポイントでも刺さる事業をコンパクトに実施する。
- アートの分野はこだわらない。
- ・コンセプトに賛同してもらえる方々
- ・問題を抱えておられる方々
- ・未来を創る若者
- ・アーティストによる作品制作、奈良に期待する思いを発信
- ・アーティストとの協働・制作・ワークショップ

などの視点を取り入れて実施する。

3: 広報・発信

この事業のポイントは、発信することにもあり、事業内容と同レベルの重要事項と位置付ける。ターゲットに応じた広報はもちろんのこと、発信ルートの開拓に努め、戦略的な発信を行う。

- ■一般向け活動 WEB、Facebook・Twitter などの SNS を中心に、多様な層への情報発信を図る。
- ■パブリシティを活用した展開 費用対効果の高いパブリシティを活用し展開する。

■戦略的な発信

漫然とリリースするのではなく、内容に合わせたメディア向け活動や東アジア文化都市 事業で培ったプレスリリースの配信等による情報発信を促す。特に海外向け広報の検討を 行う。

4: 実施体制

奈良市アートプロジェクト実行委員会が奈良市とともに実施。実行委員会の委員については必要に応じて参加要請を行う。

事業の実施にあたっては、ディレクターもしくはプログラムディレクターを指名して行う。事務局は奈良市市民活動部に置く。

(4) 平成 29 年度事業計画

奈良市アートプロジェクト

事業計画

平成 30 年 2 月

奈良市アートプロジェクト実行委員会

《平成 29 年度(古都祝奈良 2017-2018) 事業計画》

以下の4事業により、次年度以降のプロジェクトの幕開けを宣言する。

- (A) 美術部門 現代アート "花 Welcome"
- (1) アート制作・展示
- ■タイトル "花 Welcome"
- ■時期・場所 平成30年3月9日~3月25日 奈良市役所(玄関ホール)他
- ■実施意図 東アジア文化都市のレガシイを活かす事業であることを意識し、世界的なアーティストであるチェ・ジョンファ氏(「東アジア文化都市 2017 京都」参加アーティスト)を招へいし、彼の作品展示を市役所で実施する。

市役所で展示を行うことによって、奈良から世界平和構築へのメッセージを発信すると共に、奈良市がこれからアートによって社会に対する変化を仕掛けていこうとしている意気込みを表現する。

①時期	平成 30 年度に始動するプロジェクトの幕開けを告げるのに相応しい時
	期。
	また、チェ・ジョンファ氏は平昌(ピョンチャン)冬季パラリンピック
	開・閉会式のアートディレクターであり、展示時期はパラリンピックの
	開催時期と重なる。2020年の東京オリンピック・パラリンピックの気運
	を高め、平和の祭典であり、スポーツのみならず文化の祭典でもあるオ
	リンピック・パラリンピックの精神を、奈良の地から彼のメッセージに
	よって発することができる。
②ターゲット	市役所などを訪れる一般市民、アートに興味を持つ人
@ IB =r	+40-c4 12-4-5-14-14-14-5-4-5-4-5-4-14-14-14-14-14-14-14-14-14-14-14-14-1
③場所	市役所などで行うことによって、奈良市の意気込みを表わす。
④もたらす変化	制作に携わった人、作品を見た人、メッセージの受け手の意識を変える。

○作者プロフィール

チェ・ジョンファ 1961年ソウル生まれ、同在住。現代アーティストでありながら、アート・ディレクションやインテリアデザインも手がけ、多様な分野で国際的に活躍する。街中や人々の生活など日常の中にあるイメージや素材を用いながら、見る者に新たな視点を気づかせる、ユーモラスで色鮮やかな大規模作品を制作する。国内外の数多くの国際展に出展しており、リョン・ビエンナーレ(2003年)のために制作された花樹は会期終了後も展示され、街のシンボルとなるなど、その



作品は多くの人々に親しまれる友好的なものが多い。



《Air Air》(2017) 制作風景

(2) ワークショップ

■タイトル Happy Happy

■時期・場所 ワークショップ 平成30年2月20日~3月8日、3月25日 作品展示 平成30年3月9日~3月25日 奈良市ならまちセンター

■実施意図

これまでにチェ・ジョンファ氏はザルを使ったアート作品(東アジア文化都市 2017 京都では1万個のザルを使ったアート作品を出展)を手がけているが、そのザル(6,000 個)を借り受け、市民と共に、アート作品を創り上げる他、風船やプラスティックキャップを使ったワークショップを実施する。

様々なターゲット(障がい者、幼児、青少年、高齢者など)の人たちにアート作品の 制作に関ってもらい、自分自身が変わること、まちが変わること、それを見た人が変わ ることを実感してもらう。

制作を行う過程を広く発信し、どのようなメッセージを発することができるかを参加者とともに考える。

■協力団体 奈良県立大学西尾研究室 一般財団法人たんぽぽの家 奈良町に ぎわいの家

> 一般社団法人はなまる 学園前街育プロジェクト実行委員会 奈良市教育委員会 福祉施設 保育園 認定こども園

①時期	平成30年度に始動するプロジェクトの幕開けを告げる。
②ターゲット	あらゆる年齢層、職業、性別、国籍を問わない。アートに興味のある 人、ない人だれでも参加できる。
③場所	奈良市ならまちセンターをアートプロジェクトの拠点として位置づけていく。
④もたらす変化	参加者が社会問題に気づき、それを多くの人と共有する。

(3) アートディスカッションイベント

■タイトル 「生生活活―生きることとアート」

■時期·場所 平成30年3月25日

奈良市ならまちセンター1 階 coto coto イベント・展示コーナー

■実施意図

アートには「社会の問題を提起する力」があるとともに、「会話をもたらす力」がある。 チェ・ジョンファ氏に、なぜ奈良でこのような作品を制作しようと思ったのかを、直接 本人に語っていただき、その話の中から問題提起を行い、アートを通じて社会問題を考え るきっかけとなるようなディスカッションとする。(ゲスト:小山田徹氏 コーディネータ ー:西尾美也氏)

このディスカッションに参加した人々が自分を取り巻く背景を理解し、それを語ることによって、「社会に変化をもたらす力」が生まれることをめざす。それをネット中継などの手段も使いながら、広く発信していく。

①時期	平成 30 年度に始動するプロジェクトの幕開けを告げる。
②ターゲット	あらゆる年齢層、職業、性別、国籍を問わない。アートに興味のある 人、ない人 にかかわらず、少人数でもできるだけ広範囲の人を巻き込む。
③場所	アート作品の展示やワークショップの会場である、奈良市ならまちセンター1階 coto coto で行うことによって、プロジェクトとの関連性をより強く発信する。
④もたらす変化	会話の中から参加者が社会の問題に気づき、情報を発信し、自らと社会の変化を求める。

○美術部門プログラムディレクター プロフィール



西尾 美也 1982年、奈良県生まれ。奈良県立大学地域創造学部専任講師。2016年あいちトリエンナーレ、さいたまトリエンナーレ、2014年六本木アートナイト等多数のプロジェクトに参加。装いの行為とコミュニケーションの関係性に着目し、地域住民や学生との協働によるプロジェクトを国内外で展開。

「東アジア文化都市 2016 奈良市」の参加アーティスト。





(左)《人間の家》(2016 古都祝奈良) (右)《ボタン/雨》(2016 古都祝奈良)

(B) 演劇部門 青少年と創る演劇"ならのはこぶね"

■実施概要

昨年度実施した東アジア文化都市事業で実施した「高校生と創る演劇」では、参加した 高校生が、舞台芸術部門のディレクター平田オリザ氏に「期待以上の成果をもたらし、未 来への希望の道筋を示してくれたことは、芸術監督として何よりの喜びであった」と言わ しめるほどの素晴らしい発表を行った。

この "ならのはこぶね"をベースに、新しいメンバーでプロの演出家 (演劇部門プログラムディレクター田上豊氏) と共に、昨年とは違った "ならのはこぶね"を創る。

次代を担う若者が演劇を創作する過程を経験することによって、創造する喜びを味わうとともに、奈良を題材とすることによって、ふるさと奈良への愛着や気づきを得ることを目的とする。

今年は参加対象を中学生まで広げ、より未分化で初々しい感性が表出する演劇をめざす。 また演劇経験者だけではなく、演劇未経験者にも広く呼びかけ、自己を表現することによって自身の可能性を広げることに目覚める機会としても位置づける。

①時期	平成 30 年度に始動するプロジェクトの幕開けを告げる。 (来年度以降は中学・高校生の活動を考慮し、日程を調整する。)
②ターゲット	何がしたいかわからず悩んでいる中学・高校生、演劇に興味を持つ中学・高校生、創作活動に興味のある中学・高校生
③場所	奈良市ならまちセンターは昨年度の発表会場でもあり、今後演劇発表 の拠点として定着させていきたい場所である。
④もたらす変化	青少年に自己を表現することによって変われる自分に気づかせる。 若者の演劇文化を奈良に定着させる。

○スケジュール

1月23日(火) 平田オリザ氏による演劇入門ワークショップ

2月3日(土)4日(日) 青少年と創る演劇 オーディション

3月30日(金) 青少年と創る演劇 公演

○演劇部門プログラムディレクター プロフィール



田上 豊 1983 年熊本県生まれ。桜美林大学文学部総合文化学科卒業。2006 年、劇団「田上パル」を結成。方言を多用し、疾風怒濤のテンポと、遊び心満載の演出は「体育会系演劇」とも評される。大学在学中にワークショップデザインを研究し、現在、教育現場を中心に、創作型、体験型のワークショップを全国各地で実施している。演劇部の嘱託顧問や、総合高校での表現科目「演劇」の授業を受け持つなど、教育現場での経験も持つ。高校生、大学生とのクリエーション、リーディング、市民劇団への書き下ろしなど、劇団外での創作活動も展開。現在、富士見市民文化会館キラリふじみアソシエイトアーティスト、青年団演出部所属。「東アジア文化都市 2016 奈良市」で「高校生と創る演劇」の演出を行う。

